

権田保之助資料

土井 雄貴

はじめに

1 権田保之助について

2 資料の概要

おわりに

はじめに

本稿は、法政大学大原社会問題研究所所蔵「権田保之助資料」の公開に当たり、本資料の概要を紹介するものである。

まず、私が本稿を執筆することになった経緯を簡単に整理する。「権田保之助資料」は、2012年にご子息から研究所に寄贈された。受け入れは、権田がドイツより持ち帰った1924年・1925年選挙ポスターを整理中であった枘田大知彦兼任研究員（当時）が担当し、その後、新原淳弘兼任研究員（当時）が資料全体の整理や公開にかかる準備を担当された。2022年5月末に私が公開に向けての準備を担当することになった。引き継いだ際、整理作業の大部分が終了していた。それゆえ、私が行ったのは、残されたドイツ語の資料群の目録整理を伊東林蔵兼任研究員に依頼したことや、日本語資料の整理や目録の確認、公開に当たっての資料の入れ替えであることを記しておきたい。

2022年度によりやく整理が完了し、一般利用が可能となった。以下、権田保之助の略歴を整理したうえで、本資料の概要を紹介したい。

1 権田保之助について⁽¹⁾

権田保之助は、1887年、東京市神田区の商家の長男として生まれた。1899年に私立早稲田中学に入学し、校内雑誌に日露開戦論批判論を発表したことで同校を放校された。早稲田中学時代の恩

(1) 大原社研内での権田の評価について言及したものとして、二村一夫「70年こぼれ話 10 権田保之助のこと」(『大原社会問題研究所雑誌』379・380号(1990年7月), 160頁)を参照。また、大原社研の1920年代初頭における活動を振り返った榎一江「大原社会問題研究所の初期活動——百年史編纂にあたって」(『大原社会問題研究所雑誌』724号(2019年2月), 22-36頁)では、「権田保之助資料」のうち下記の書簡も用いられている(特に27-33頁)。

師安部磯雄との関係からドイツ語研究を志し、1905年に東京外国語学校独逸語学科に入学した。1908年には東京帝国大学哲学科選科に入学、さらに同哲学科に進学した。1914年から1918年には、東京府私立独逸協会学校教員に就職した。この間、東京市活動写真調査や、東京市寄席興行調査を実施した。1918年11月には次の2点を委嘱された。内務省保健衛生調査会よりの保健衛生に関する実施調査事務取扱、東京帝国大学法科大学副手である。1918年11月以降、月島調査や、労働者衛生状態・生活状態調査、家計調査などに関係した。1919年3月には、帝国教育会から米国商業経済局と交換すべき活動写真フィルムの選定・撮影に関する委員に選定された。同年9月に東京帝国大学経済学部講師となり、10月には同学部助手となった。

1920年1月、帝国教育会より通俗教育部委員を委嘱されたほか、4月には私立女子英学塾（現、津田塾大学）にて美術工芸論の講義を開講した。また、9月には文部省より社会教育調査委員を委嘱され（～1923年5月）、10月には大原社会問題研究所（以下、大原社研）の所員を委嘱された。倉紡工場労働者娯楽調査はこの時期のものである。1921年2月には文部省より活動写真説明者講習会講師を委嘱され、東京帝大助手を辞し、5月に大原社研の研究員に就任した。この間、大原社研にて、浅草調査や第一回文部省全国民衆娯楽調査を実施した。1922年12月に文部省より消費経済講習会講師を委嘱された。また大原社研にて『労働年鑑』の編集責任担当となった（～1926年7月）。1924年には、大原社研より、海外留学のために渡欧した（～1925年10月）。1927年文部省より教育映画調査の委嘱となる（～1943年4月）。1928年には、3・15事件を契機とした大原社研「存廃問題」が起こり、大原社研側の中心委員として関与した⁽²⁾。1929年には、東京独語研究所「中野ゼミナール」を解説し、1930年には文部省より民衆娯楽調査を委嘱された（～1943年4月）。

1934年には、権田の提唱により、大原社研の附属機関として「ドイツ語の教授を目的とする」天王寺ドイツ語ゼミナールを開設し、その主任となる。また、大原社研の調査室責任者にもなった。翌年の1935年、大原社研の委員会で理事に決定した。この体制のもとで、1937年に大原社研は東京へ移転し、その後理事を辞任した。1939年には、日本大学芸術学科講師、日本厚生協会より専門員の委嘱、内閣より労務管理調査委員会委員や演劇・映画・音楽等改善委員会委員に任命された。1941年、社団法人日本映画社より調査部の委嘱、文部省より国民学校教科用映画検定委員を委嘱された。1942年には、内閣より文部省専門委員や厚生省専門委員に任命され、商工省より入場料専門員会専門員に任命された。1946年には、日本放送協会常務理事に就任した。1951年に死去、享年65歳である⁽³⁾。

2 資料の概要

権田保之助資料の目録としては、すでに『権田保之助研究』創刊号（1982年）にて「未公開資料目録」が発表されている。ここでは「生活調査及び娯楽に関する資料」、「文部省＝社会教育関連

(2) 「存廃問題」については、法政大学大原社会問題研究所編『大原社会問題研究所100年史』法政大学出版局、2020年、70-76頁を参照。

(3) 以上の略歴に関しては、「権田保之助年譜」日本人と娯楽研究会編『権田保之助研究』創刊号、遊戯社、1982年、52-59頁を参照。



写真1 配架の様子

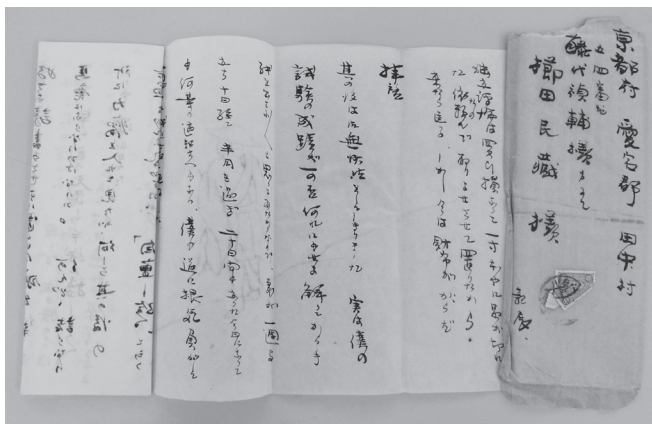


写真2 (書簡) (29-2)

資料」が目録化された⁽⁴⁾。また、『『浅草』調査日誌 附倉敷女工趣味調査誌』⁽⁵⁾と『工場娯楽の研究 倉敷調査報告』⁽⁶⁾がそれぞれ活字化されている。

本稿末尾の「付表 資料番号とタイトル一覧」にあるように、本資料は全体で59束である。包装紙で一括となっていた資料に枝番を付して整理した。以下、略歴に即しつつ資料の概要を紹介する。以下の紹介で記載する資料のタイトルには「」を付しているが、これは包装紙に記載のタイトルをもとに、表記の都合で一部省略したものや、整理過程で付したタイトルである。文章内に(1)のように付した番号は、付表にある親番号である。なお、本資料の詳細な目録として、2023年3月刊行の法政大学大原社会問題研究所ワーキングペーパー No.59『権田保之助資料目録』を参照されたい⁽⁷⁾。また、大原社研のデータベースにて、資料の検索が可能となっている。併せてご利用いただきたい⁽⁸⁾。

権田保之助と榎田民蔵が同級生であり、交友を深めていくことは知られるところであるが、1908年から大正期にかけての榎田民蔵との書簡として「権田書簡・榎田民蔵宛」(29)がある。同時期やそれ以降も含め、榎田民蔵、竹林閑人、高野岩三郎、森戸辰男、久留間鯨造などとの書簡から構

(4) 「権田保之助未公表資料目録 (1)」日本人と娯楽研究会編『権田保之助研究』創刊号、遊戯社、1982年、60-76頁。

(5) 「〔未公表資料〕民衆娯楽行脚 第貳編『浅草』調査日誌——附倉敷女工趣味調査誌」日本人と娯楽研究会編『権田保之助研究』創刊号、遊戯社、1982年、79-107頁。

(6) 「〔未公表資料〕工場娯楽の研究——倉敷調査報告 (大正九年～十一年) 権田保之助」日本人と娯楽研究会編『権田保之助研究』第4号、遊戯社、1986年、54-104頁(寺出浩司氏による解題含む)。

(7) 法政大学大原社会問題研究所ワーキング・ペーパー No.59『権田保之助資料目録』2023年3月。

(8) 一部例示する写真にはタイトルと番号が付されている。これは上記注(7)の目録にある資料タイトルと資料番号である。「4-2」は親番号4の枝番号2の資料を指す。

成される「M44～S6 書簡集」(32)もある。書簡に関連するものとして、「普選関係」(6)には1928年、1930年の普選に関する選挙ビラ、新聞、応援要請の書簡などが保存されている。

1910年代以降に行った調査に関係する資料としては、「活動写真調査関係資料」(大正6年) (10)がある。これは、1917年の活動写真調査に用いた調査票と調査の集計用紙が保存されたものである。次に1918年11月から1920年秋にかけて行われた画期的な都市社会調査である月島調査についての資料としては以下のものがある。「月島調査報告書」(7)には、1921年に刊行された『月島調査報告』(第一輯、附録ノ一、附録の二)がまとめられている。当該報告書にかかわり、1919～1920年に調査で用いた調査表や、『東京市京橋区月島に於ける實地調査報告 第二輯』と題した4冊のノートが「月島調査原票」(8)に保存されている。

1920年代、権田は大原社研での活動も活発となる。その際の資料としては、大内兵衛、高野岩三郎、森戸辰男などからの書簡や、大原社会問題研究所での会議録、案内状など「大原社研」関係資料」(33)がある。これにかかわり、「講演草稿」(28)には、大原社研における月次講演会の原稿がある。また、梅田映画劇場調査綴を含む演劇映画関係の資料や「千葉県農村娯楽調査」の原稿といった1943年の資料も含まれている。その「千葉県農村娯楽調査」にかかわるものとして、権田による「千葉県農村娯楽調査 報告」の原稿と「昭和18年3月 千葉県農村娯楽調査 報告」を権田速雄氏が清書したもので構成される「千葉県農村娯楽調査」(23)がある。「独語研究」(49)には、権田が主幹を務めた雑誌『獨語研究』についての編集日記や創刊号関係の覚書などが保存されている。講義や原稿に関連した資料には以下のものもある。1920年には女子英学塾にて講義を開講しているが、その際の講義の草稿については、「講義草稿(T9 女子英学塾)」(56)や、「帝大女子英学塾講義草稿」(57)がある。これにかかわり、権田の執筆した美術や社会についての評論集をまとめた「美術論集 社会論集」(36)がある。原稿という点では、翻訳時に使用したと思われる原本と、手書き原稿、刊本を含む「ショウペンハウダー「宗教問答」」(5)がある。

続いて1920年代の調査関係資料を見ていこう。「倉敷工場娯楽調査」については次の物がある。「倉敷紡績女工趣味調査(大正9年)」(12)には、「〈未公表資料〉工場娯楽の研究——倉敷調査報告(大正九年～十一年)権田保之助」として発表された資料の原本がある。このほか調査資料の原票、書簡や絵葉書なども確認できる。「T10 文部省「民衆娯楽調査」原資料及び調査まとめ原稿」(15)には、文部省から委嘱の娯楽調査についての原稿ノートや調査資料がある。また、第二回と付された調査個票をまとめた「倉敷調査〔調査原票〕(第二回)」(19)もある。

また、浅草調査については「〈未公表資料〉民衆娯楽行脚 第貳編『浅草』調査日誌——附倉敷女工趣味調査誌」として発表された資料の原本や浅草で集めた芸者一覧や封書、当該期の雑誌、新聞切り抜きなどを含む「浅草調査資料」(9)、浅草の館ごとの従業員への調査個票(勤務場所、就業時期、所帯、収入額などの質問項目)をまとめた「T10 浅草興行場従業員調査」(14)がある。ほかに浅草調査に関連する資料としては、興行場の従業員調査の個票がまとめられた「浅草調査大阪道頓堀調査興行場従業員関係」(20)や、1985年の権田速雄氏らによる調査・研究の概要報告や「浅草社会地図」復元の関係書類などをまとめた「T10「浅草地図」関係調査(娯楽研、検討)」(22)がある。また、「T10 小学校児童娯楽関係」(48)は、包装紙に「浅草調査の一部として」と記され、学校ごとに4～6年生の男女別で7項目の回答が記された調査票がある。「大正十年浅草

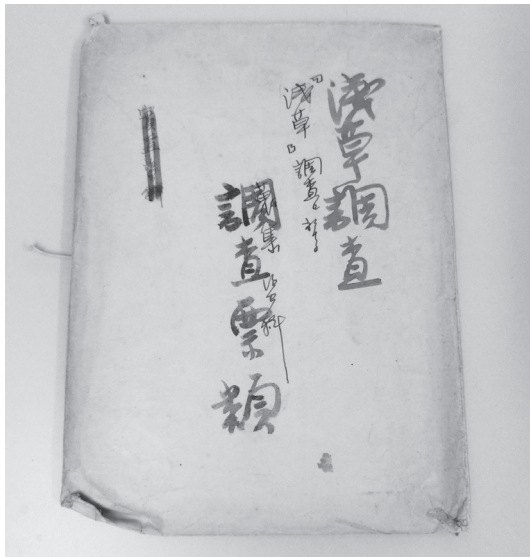


写真3

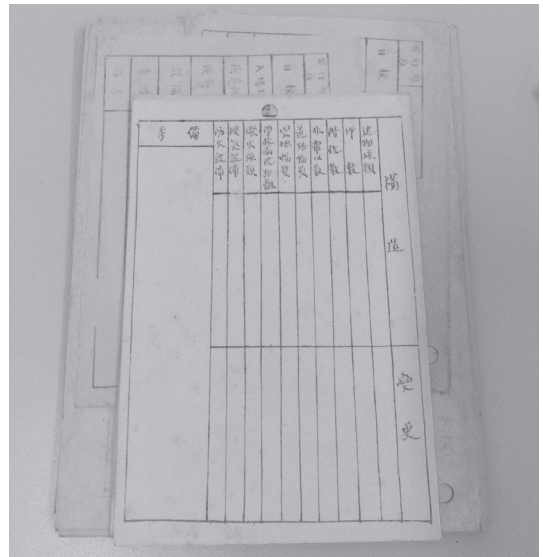


写真4

工場名				調査時日			
出生地				就年	職	日	
普通教育				職業教育			
父母職業				配偶者			
技能特徴				職業			
体格				趣味嗜好			
賃銀				疾病			
作業種別				時間			
出勤回数				作業工程			
同居家族				賞罰			
人数				就職年齢			
家族関係	戸主	男女		父母有無	配偶者有無	子女有無 数	
就職前							
状況							

写真5

写真3・写真4・写真5 「浅草調査 調査票類」(9-33)

調査に於いて獲たる「浅草」及び「道頓堀」社会図原図」(43)には、当該期の調査で地図に店の情報などを書き入れたものが保存されている。「浅草調査資料」興行関係各種プログラム類」(46)には、活動写真関係記事や興行場のプログラム、引札などが収集されている。地域としては京阪、大阪、浅草、東京市などの記載がある。

1924年からは渡欧に出ているが、その際に交わされた書簡がまとめられた「外遊時来信①」(1)には日本語・ドイツ語の書簡がある。「外遊時旅行案内書 時刻表 絵葉書」(2)には、1924年の渡欧の際の旅券や収集物、絵葉書や書簡などがまとめられている。「外遊随筆「渡欧土産」」(3)に

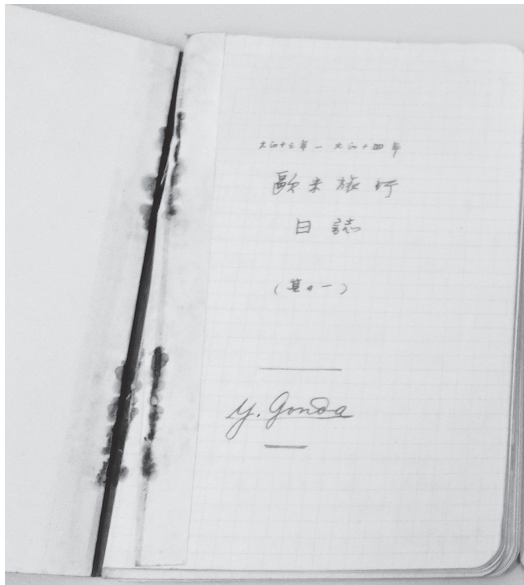


写真6 「大正十三年―大正十四年 欧米旅行 日記
(其の一)」(4-2)

は、1924年からの渡欧時の「渡欧土産」の原稿の覚書と後年に権田速雄氏が清書したもので構成される。その清書の原本となった外遊随筆の新聞連載の校正紙・原稿がまとめられた「渡欧土産（未完稿）」(30)がある。このほか、渡欧時の日誌3冊と「人名蒐録」、「旅費明細書」がまとめられた「訪欧日記」(4)や、1924年の外遊時に収集したドイツの映画製作会社などのパンフレット類や権田宛の請求書や乗車券などが「外遊時各種パンフレット」(31)に保存されている。

また、刊行された雑誌をまとめたものとしては、以下のものがある。関西弁士協会『会報』(1922年2月～10月)や『月報』(1924～1926年)、関西説明者協会の『会報』や同協会発刊の『映画解説漫談随筆雑誌 聲陣』など雑誌をまとめた「関西弁士協会説明者協会機関誌(T12～

S2)」(11)や、「日本に唯一つの流行歌の雑誌」である『演歌』や『民衆娯楽』、『月刊民衆』(いずれも1919～1923年までの期間分)などが保存された「啞蟬坊(T9～)」(35)がある。また、東京日活辯友会発行の『辯友』(1920年10月～1923年1月発行分まで)をまとめた「[弁友](T9～T13)」(39)もある。なお包装紙にはT13とあるが、内容物はT12、1月発行分までのものである。

省庁から刊行されたものとしては、警視庁発行の『震災統計書』(1923年)と『警視庁統計』(1923～1928年)をまとめた「警視庁統計書(T12～S3)」(37)や、『警視庁統計書』の1917～1921年までの5冊をまとめた「T6～T10 警視庁統計書」(41)がある。

1927年からは文部省より教育映画調査の委嘱となるが、教育映画を含む映画や教育、娯楽関連についての資料としては次のものがある。大正期から昭和初期にかけての教育映画関係の資料をまとめた「教育映画関係」(18)には、地方の教育映画関係資料や、牧野教育映画製作所発行の刊行物、書簡、書類綴などが保存されている。「文部省教育映画事務関係書類」(簿冊)の1920年5月から1931年までのものをまとめた「文部省関係資料」(58)もある。また、1932年から1939年にかけての文部省簿冊が保存された「S7～S17 文部省記録」(59)には、映画館や文部省選定の児童生徒向映画目録選定理由書などがある。大正期から昭和期にかけて文部省より刊行の雑誌や、それにかかわる書簡や新聞もまとめられた「(雑誌)帝国教育」(27)もある。

娯楽関係の刊行物としては、以下のものがある。「古典映画雑誌 パンフレット類」(47)には1920～1922年頃の映画関係のパンフレットなど、刊行物や権田宛の絵葉書などがまとめられている。また、『日本映画事業総覧』5冊と『国際映画年鑑』1冊をまとめた「束1」(53)や、1938年頃文部省社会教育局から刊行された『教育映画研究資料』などをまとめた「文部省資料(水)」

(13), 大正～昭和期の『文部省推薦映画目録』や活動写真「フィルム」検閲年報など、戦時下の娯楽に関する刊行物をまとめた「文部省関係資料（パンフ類）」(38), 民衆娯楽, 活動写真, 教育映画などについての刊行物・書籍をまとめた「束2」(54)がある。

これにかかわる原稿類としては、「映画企業調査」(26)には映画企業調査・発達史にかかる手書きの原稿がある。大正末期から戦時期にかけての映画関係の刊行物や権田の講演原稿などをまとめた「映画関係」(40)や、1931年から1946年にかけて権田が行った講演の原稿（手書き）をまとめた「講演原稿」(44)もある。このほか、1929年3月22日から7月2日までに鑑賞した映画の記録として「映画鑑賞日記」(45)に日記が保存されている。

最後に、収集物については、大正から昭和にかけて収集した絵葉書やブロマイド、雑誌、権田宛の案内状などをまとめた「映画関係資料」(25)や、1938年から1945年までのスクラップ、1952年のスクラップ、『教育映画新聞』1～6号などをまとめた「新聞切抜スクラップブック・娯楽関係事典関係礼状」(42)がある。

同時期のものとしては、上記の他に次のようなものもある。「雑資料」(17)には大正年間から昭和期までの切り抜きや原稿、調査票などがまとめられている。権田執筆の雑誌記事や新聞記事の切り抜きなどをまとめた「雑誌投稿文集」(21)や、大正末～昭和期における娯楽問題の記事をスクラップした「新聞切抜（大正時代）」(16), 「娯楽関係新聞スクラップ（S12～S16）」(24)がある。

なお、書籍類としては次のようなものがある。女性の労働、芸術と教育、世界文学のおとぎ話など日本語書籍、外国語書籍で構成される「バラ」(55), 社会科学系の海外の書籍「(刊本11冊)「THE WEDGES MAN…」」(51), 翻訳本を含む海外の社会科学系の書籍「(バラ刊本6冊)」(52), 1910年代の海外の映画関係の解説書などで構成される「(刊本・ノート5冊)「Das Recht…」」(50), 第一次世界大戦以前の書籍を集めた「大戦前ドイツに於ける教育映画関係文献」(34)である。

おわりに

以上が「権田保之助資料」の概要である。権田保之助の研究や交流先とのやりとりはもちろんのこと、1920年代以降の調査の方法についても知ることができる資料である。また、大原社研における権田の活動や、当時の収集物から見えてくる娯楽の様相など、多岐にわたる資料が保存されている。今回は束のタイトルにより関連項目として分類を行い紹介する形を採った。しかし、本稿でも一部紹介したように、束の中には別の項目にかかわる資料も含まれている。ワーキングペーパーの目録をご確認いただきたい。最後に、寄贈していただいたことや、整理に携わっていただいた皆さまに感謝するとともに、これらを活用した研究の進展を望みたい。

（どい・ゆうき 法政大学大学院社会研究科博士課程／大原社会問題研究所兼任研究員）

付表 資料番号とタイトル一覧

親番号	タイトル	親番号	タイトル
1	外遊時来信①	31	外遊時各種パンフレット
2	「外遊時旅行案内書 時刻表 絵葉書」	32	M44 ～ S6 書簡集
3	外遊随筆「渡欧土産」	33	「大原社研」関係資料
4	訪欧日記	34	大戦前ドイツに於ける教育映画関係文献
5	ショウベンハウダー「宗教問答」	35	啞蟬坊 (T9 ～)
6	普選関係	36	美術論集 社会論集
7	月島調査報告書	37	警視庁統計書 (T12 ～ S3)
8	月島調査原票	38	文部省関係資料 (パンフ類)
9	「浅草調査資料」	39	「弁友」(T9 ～ T13)
10	「活動写真調査関係資料」(大正6年)	40	映画関係
11	関西弁士協会説明者協会機関誌 (T12 ～ S2)	41	T6 ～ T10 警視庁統計書
12	倉敷紡績女工趣味調査 (大正9年)	42	新聞切抜スクラップブック・娯楽関係辞典関係 礼状
13	文部省資料 (水)	43	大正十年浅草調査に於いて獲たる「浅草」及び 「道頓堀」社会図原図
14	T10 浅草興行場従業員調査	44	講演原稿
15	T10 文部省「民衆娯楽調査」原資料及び調査ま とめ原稿	45	映画鑑賞日記
16	新聞切抜 (大正時代)	46	「浅草調査資料」興行関係各種プログラム類
17	雑資料	47	古典映画雑誌 パンフレット類
18	教育映画関係	48	T10 小学校児童娯楽関係
19	倉敷調査「調査原票」(第二回)	49	「独語研究」
20	浅草調査大阪道頓堀調査興行場従業員関係	50	(刊本・ノート5冊)「Das Recht…」
21	雑誌投稿文集	51	(刊本11冊)「THE WEDGES MAN…」
22	T10「浅草地図」関係調査(娯楽研, 検討)	52	(バラ刊本6冊)
23	千葉県農村娯楽調査	53	束1
24	娯楽関係新聞スクラップ (S12 ～ S16)	54	束2
25	映画関係資料	55	バラ
26	映画企業調査	56	講義草稿 (T9 女子英学塾)
27	(雑誌) 帝国教育	57	帝大女子英学塾講義草稿
28	講演草稿	58	文部省関係資料
29	権田書簡・柳田民蔵宛	59	S7 ～ S17 文部省記録
30	渡欧土産 (未完稿)		